

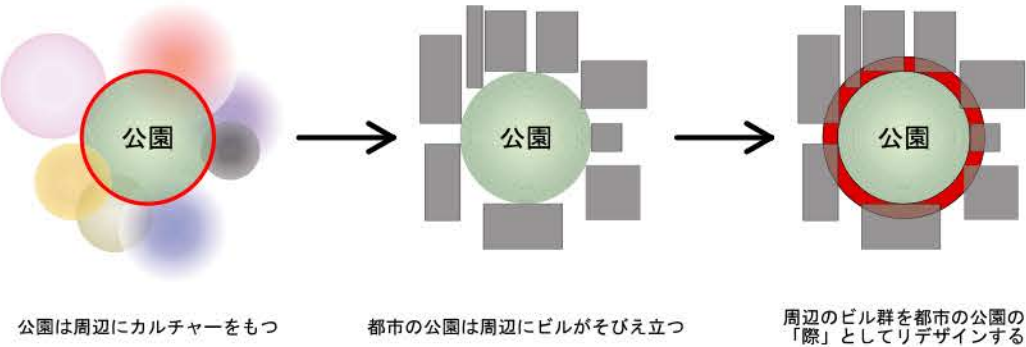
「際」

—都心の公園の際でつながりを創る—



背景

近代の都市空間において公園は、良好な都市環境の提供、都市の安全性向上、市民の活動の場、憩いの場の形成、地域づくり、地域の活性化といった重要な役割を持つ。しかしながら、都心の小・中規模公園はビル、マンションなどの建築物に囲まれ閉鎖的なものも多く、先述した役割を果たせていない。また公園は周辺にカルチャーをもつ街があつてこそ成り立つ空間であるとする。周囲に寄り添う公園が存在するからこそカルチャーを持つ人々が公園に引き寄せられる。そして引き寄せられた人々が公園で過ごすことでそこがまた良い空間となる。周囲との関係を持たせられるように公園を存在させるには「際」のデザインが重要である。そして中層のビル群に囲まれた都市の公園は「際」であるビル群とのつながりが求められる。

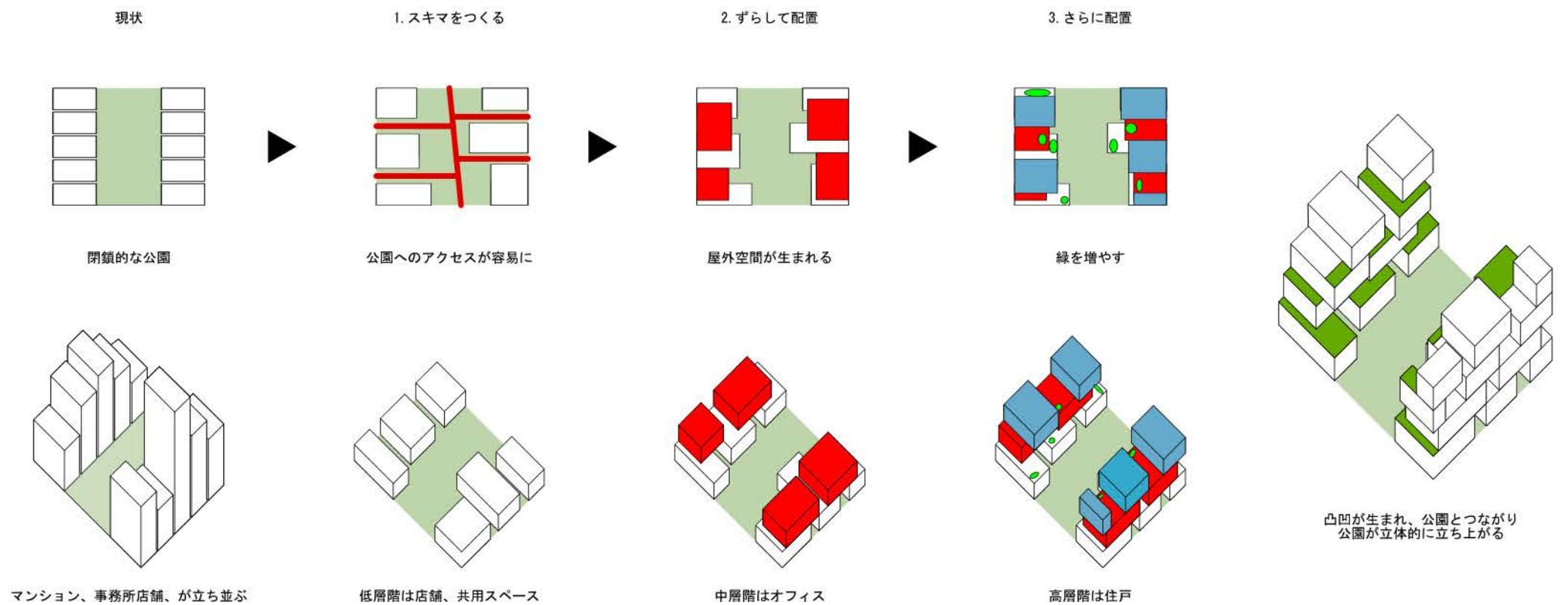


敷地

設定する敷地は秋葉原のいずみ児童遊園である。秋葉原駅から徒歩5分の近さで周囲は事務所やマンション、店舗等の中層ビル群で密集している。ビルに面しているため、建物を挟んだ南側の道路からも公園内の様子を知ることができない。秋葉原という都市にも関わらず公園に賑わいはなく居心地の悪い空間であるとは言えない。

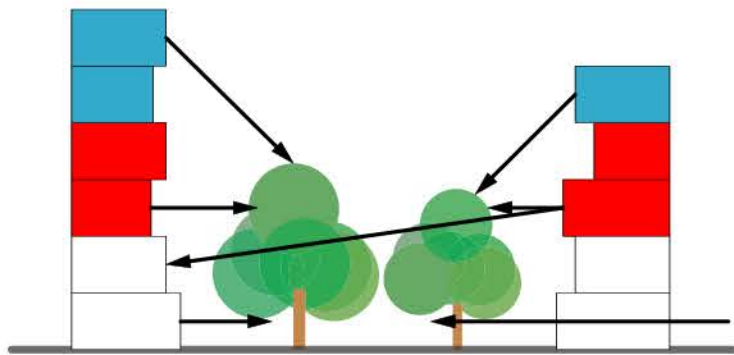


提案



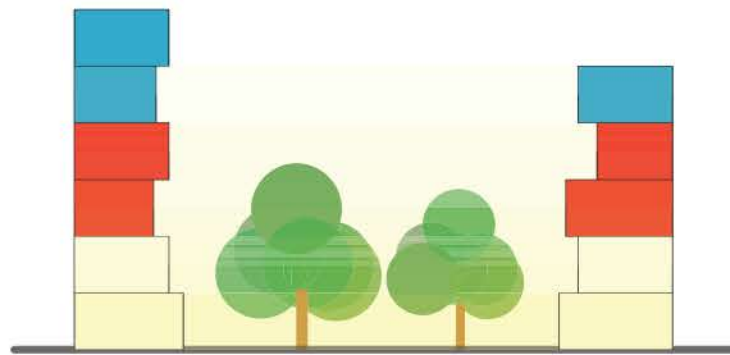
公園とビルの関係

ビルから公園、ビルからビル、道路から公園の眺め



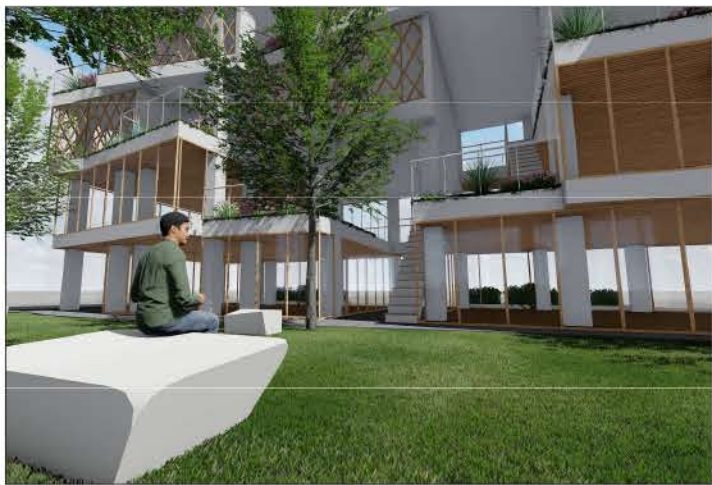
それぞれの階層から公園が眺められるようになっている。プライバシー確保のため低層から高層は眺められない。道路からの眺めにより公園に人をひきこむ。

公園の賑わい

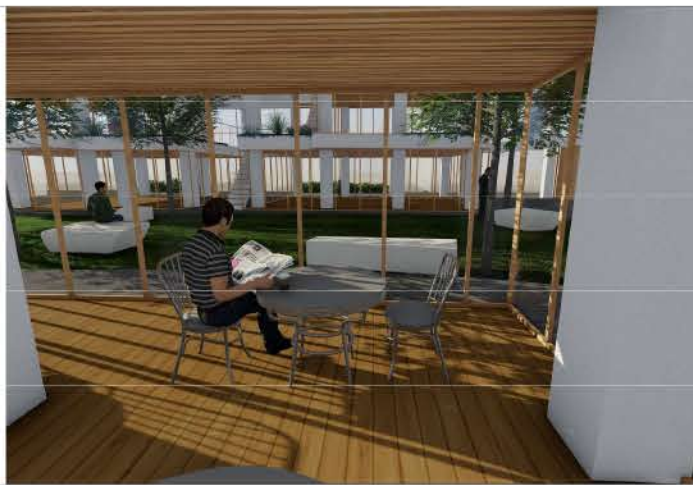


高層になるにつれて賑わいが少なくなっていく。そのためオフィスの中層、住戸を高層に配置する。低層の賑わいにより公園に人をひきこむ。

シーン



公園内で一休み



カフェで雑誌を読む



仕事中にふと公園を眺める



向かいのビルの友達に手を振る



リビングで趣味のネットサーフィン



お昼休みは同僚と屋上の広場で

断面図

屋上空間
4階から階段を上がると屋上の広場に出る。緑のある開放的な空間となり、向かいのビルでの賑わいや公園での賑わいを程よく感じることができる。仕事で疲れたときは、オフィスから階段を上がって休憩スペースとして使い、上層の住戸からは子ども達が小さな公園として集まる場となる。

屋外空間
スキマ、ズレから生まれた屋外空間は立ち話、仕事の休憩などの一休みに利用できる。向かいのビルでの人々の活動が見える。スキマ、ズレによって増えた屋外空間に緑を加えることで公園という空間を広く見せるとともに公園外から公園内の様子がわかるという効果ももつ。

低層階のカフェ・共有スペース
1階、2階の低層階はカフェ、店舗、共有スペースとなる。公園を眺めながらコーヒーを飲んだり、友達とゲームをしたりできる。公園の賑わいが直接伝わる。上の階層の様子は高さの関係からうかがうことができない。

高層階の住戸
見渡しの良い高層階は住戸となっている。公園内の様子を見ながら過ごすことができる。公園とは高さに違いを見ながら過ごすことでそれが騒音対策、プライバシー保護にもなり、少しの賑わいを感じながら居心地の良い暮らしを楽しむことができる。

中層階の事務所・オフィス
中層階は事務所、オフィスになっており緑を見ながら仕事をすることで仕事でのストレスを軽減できる。中層階であることから公園内の賑わいを少し感じることができる。公園の樹木を最も良い高さで感じることができる。

公園内
公園には4方向からアクセスが可能である。自分自身の一番居心地が良いと感じる空間で過ごすことができる。上を見上げれば、ビルの変化のあるファサードを見ることができ、公園の中央の芝生の空間では様々な居方で居られる。